

編集後記

今月号の特集は大阪市立大学の中村博亮教授の企画による骨粗鬆症性椎体骨折治療の最新知見である。高齢化が世界に先駆けて深化する中でより効果の高い最新治療を、医療費増大を抑制しつつ如何に合理的に実践すべきかという観点でとても学ぶことが多い特集である。令和初の新年という節目に記事を読みながらしみじみと医師として勤めてきた時代の国の変遷を振り返った。私が整形外科医として歩み始めた昭和末には日本の高齢化率は10%前後であり、平均寿命も男性は74歳、女性が80歳前後であった。当時は大腿骨頸部骨折患者の平均年齢は70歳前後であり、現在よりも随分と若かったように思う。100歳を超える人は希少で、外科的治療を行ったことが新聞記事になるほどに珍しいことであった。平成の31年間を経て世は様変わりし、昨年末で日本の100歳以上人口は7万人を超え、予測では高齢化率の増加は2060年まで増大を続け、一方で人口は既に減少傾向に入っており、人口統計から見ると令和時代の厳しさを感じずにはいられない。一方で、骨粗鬆症に対する治療を振り返ると、昭和末当時は骨粗鬆症治療薬も選択の幅はなく、あまり積極的に治療をすることもなかった。活性型ビタミンDは広く使われていたが、第1世代のビスホスホネートであるエチドロネートも骨粗鬆症への使用がやっと始まった程度の状況であった。平成時代を通して骨粗鬆症の

診断・治療は大きく進歩し、昨今の70代は当時と比較して随分と活動性が高くなっている。この間の健康寿命の延伸は平成時代を通じた医療を含むテクノロジーの進歩の結果だと素直に感じる。しかし、テクノロジー進化の恩恵は急速に増大する90歳以上人口の人にまで及んでいるとは思えない。日本とスウェーデンから17の大学が参加するMIRAIプロジェクトというものがある。昨年そこで日本の高齢者医療の課題に関して発表する機会を得たが、その際、スウェーデンの研究者から超高齢人口の動態に東西で大きな違いがあることを教えてもらいとても驚いた。ヨーロッパでも90歳以上人口は増大傾向にあるが、推移は1次線形的であるのに対し、日本と中国ではこれが指数関数的に伸びており、しかも、西洋諸国と比較して寝たきり状態の比率が極端に高いという。スウェーデン側からはこの状況は高齢者に対する過剰医療の結果ではないかとの指摘を受けた。

令和はAI、5Gなどの新たなテクノロジーの導入と時を同じくしており、今後これらの技術によりさらに医療を含む社会全般に大きな変化が生ずると期待されている。今後の技術革新が超高齢者の質調整生存年の改善をもたらすことを期待してやまない。(平田 仁)

「整形・災害外科」第63巻 第2号(2月号) 2020年2月1日発行(毎月1回1日発行) 定価(本体2,500円+税) 年間購読料金 定価(本体39,400円+税) 〔年間13冊(臨時増刊号、増大号を含む)の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03(3811)7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811)7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813)0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03(5226)2791
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。